かぐらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 95 号

平成10年5月15日

編集　旭川医科大学
　　厚生補導委員会
発行　旭川医科大学教務部学生課

（写真撮影　医学科第２学年　坂田　志紋）　　春来たりて

新入生を迎えて……久保　良彦……2
医学科の新入生を迎えて……山内　一也……3
旭川医大看護学科は宝の山……北村久美子……4
医学科新入生記念写真……5
平成10年度医学科入学者名簿……5
看護学科新入生記念写真……6
平成10年度看護学科入学者・第３年次編入学者名簿……6
新入生を迎えて……相沢　圭……7
新入生を迎えて……留畑寿美江……7
平成９年度学位記受領者名簿……8
平成10年度大学院入学者名簿……8
外国人留学生一覧……9
研究室紹介……平　義樹……9
新歓合宿を終えて……南　尚賢……10
大学祭実行委員会から……仁木　淳……10
学内ニュース
平成９年度学士学位記授与式……11
平成10年度入学式……11
平成10度運営組織……11
新入生研修実施される……11
平成10年度の主な行事……12
教官の異動……12
窓外……沖　潤一……12

新入生を迎えて

学長 久保良彦

このたび旭川医科大学に入学を許可された、医学科101名並びに看護学科64名の皆さん、入学おめでとう。本学教職員を代表して、心から歓迎の意を表します。

また、今日まで慈しみ育てて来られたご父母の皆様に、そのご苦労に対し深く敬意を表し、お祝いを申し上げます。

さて、皆さんがこれから学ぼうとしている医学は、大変な勢いで進歩しております。これは科学・技術、特に生命科学の分野における研究の目覚ましい発展によるものであることは、いうまでもありません。生命の営みや病気の仕組みが、細胞・分子あるいは遺伝子といったレベルで次々と解き明かされて来ております。

このことは、当然ながら学習すべき知識量が膨大になってゆくばかりでなく、今日学んだ知識も明日にはもう古いということさえ珍しくないほど、医学知識自体の寿命が短くなっているということであります。これだけ学習しておけば、これだけ記憶しておけばそれで済むという時代ではなくなっているのであります。これからは生涯学習の時代であり、それぞれの分野において、進歩に合わせて主体的に自ら学び続けることでしか生きてゆくことができない時代といわれる所以であります。皆さんが大学で求めるべきことは、多くを学ぶということより、学習の精神なのであります。何故？どうして？いつ？どこで？何を？誰が？といった知的好奇心をかき立て、自分で考え身につけてゆくことが最も肝腎なことなのであります。

一方、このように加速度的に進歩する医学は、多くの人々を病から救い、長生きさせることになりました。わが国が世界一の長寿国になっていることはご承知のとおりであります。このことはまた、わが国では成人病あるいは生活習慣病といわれる、治し難い慢性の病気が主体をなす疾病構造に変わったということであります。このようなわが国の高齢社会への移行や疾病構造の変化は、医療を限りなく拡大させ、手のかかる医療にするものです。

皆さんが将来関わることになるこの医療は、医学の社会への適用ということでありますから、医療は医学すなわち生物学的あるいは自然科学的側面と、医療サービスという人間学的・社会学的側面という二つの面を持つことになります。いずれも大切なことはいうまでもありませんが、特に医療の人間学的・社会学的側面は、これまでともすればなおざりにされる傾向にあり、心しなければならない問題であります。何故ならば、医療の現場では患者個人個人が対象であり、対象者である人間一人の全体をどれだけ適確に把握できるか、あるいは対象者の心の奥底に潜む悩みが何であるかをいかに的確につかむか、それらの確度が高い程、適切な医療の実践につながることになるからです。医療に関わるもの―医療人―にとって、人文科学、社会科学など、人間や社会の理解に役立つ領域の学習とその実践的トレーニングが、医学の学習に劣らず非常に大切なことになります。

別な見方をいたしますと、科学・技術の著しい進歩は、診断・治療など医療技術のレベルを向上させることはもちろんですが、それとともに、その技術の分散・平均化をどんどん進めます。それは、勉強さえすれば誰でも技能レベルの高い医療人になれるということを意味します。このように、医療の一面―医学的側面―は確実に進む中で、これからの医療に最も求められるものは、医療人が患者の不安や苦悩の領域にどこまで立ち入り、いかにその患者の尊厳を守るかということであり、医療人の持つ豊かな人間性―医療の人間学的、社会学的側面―ということになろうかと思われるのであります。

皆さんは人間の健康を守り、病苦を除き、生命の尊厳を保つ医療あるいは医学に一生を捧げるという貴い覚悟を持って本学に入学されて来られたと信じます。どうかその覚悟をいつまでも新鮮に保っていただきたい。大学は自己学習するところで、それはすべて自分のためであるということを忘れずに、貪欲に学んでいただきたい。医学的に、人間学的に自分を豊かにして、社会の期待に応えていただきたいと念願いたします。

（平成10年4月10日　平成10年度入学式　学長式辞）

医学科の新入生を迎えて

医学科第１学年担当　山　内　一　也

新入生の皆さん、入学おめでとう。長く厳しい受験勉強に耐え、晴れて入学を果たされた皆さんの気持ちは察するに余りあります。大空の下にくっきりと白く輝く大雪連山の峯々さえも皆さんの門出を祝福しているかのように感じられる事でしょう。これからの自分の将来に大きな期待を抱いている事でしょう。しかし、また山の彼方が見えぬようにどこか漠然とした不安の入り交じった心境にもあるのではないでしょうか。医学をただ単に学問として修めるだけでなく、一人の医者として患者に接し、時にはその患者の命をも預かるという立場に立つのですから、遣り甲斐のある仕事としての期待と自分はそのような医者になり得るであろうかという不安が入り交じるのは当然でありましょう。

さて本学の学生となって皆さんに次の言葉を送りたいと思います。（誰の言葉かは忘れましたが）

A Cool Head ＋A Warm Heart

この言葉は、学則の冒頭に述べられている本学の教育目標である「進歩した医学の修得」と「医の倫理に徹した高潔な人格の育成」にも相い通じるものがあります。医学は、生物学、化学、物理学、統計学等々広範な自然科学を基礎として成り立っている学問であります。従って日進月歩する医学の本質を真に理解するためにも、先ずこれらの分野をきっちりと固めておく必要があります。進歩した医学を修得するためには膨大な量の知識を頭に入れなければなりませんが、木を見て森を見ない式の学習態度は厳に慎むべきです。勿論一つ一つの木々を見ずして森の本質を理解できぬこと明らかでありますが、自分が今どのような森の中を歩いているのかを常に心掛けながら学習することが大事だと思います。その上で初めて具体的な問題に対して冷静な判断を下せる実力が身につくのではないでしょうか。医学は、接する相手が人間であるが故に自然科学としてとらえるだけでは不十分であります。そこに医者としての遣り甲斐があると同時に難しさがあります。人間あるいは人間社会を研究対象としている分野に人文科学や社会科学があります。哲学、心理学、社会学をはじめとするこれらの分野の講義が最初の一年半に集中的に行われます。勿論一年半の講義を学んだからと言って、皆さんの人間理解が急に深まるわけではありません。これからの一生涯を通じて多くの人に接する中で皆さん自身がその内容を肉付けし己自身の血肉としていくべき課題です。我々の先輩達がどのように人間を観察し、理解してきたのか、大いに学び取って欲しいものです。

皆さんの大学生活の主要部分が学業にあることは当然でありますが、もう一つ大事なことは友人と語り、遊ぶことです。孤独にならない事です。多くの人達はサークル等に入り先輩達との交わりの中で徐々に大学生活にも慣れていくでしょう。一つくらいはサークルに入るのもよい事です。医学部は卒業生の殆ど全てが同一の職業に就くという特殊な学部です。そのためにお互い助け合う気持ちは他学部生よりも強いようですが、その反面唯我独尊的態度に陥る危険性があります。特に本学は単科大学ですので異なる学部の多様な学生達と交わる機会も多くありません。サークル活動等を通じて他大学の学生諸君と交わり時には酒なども酌み交わし大いに語り合うのもよいでしょう。そして十数年後には

A Cool Head ＋A Warm Heart

の言葉を十分に我がものとし更にそれにプラスαを身につけた花も実もある医師となった皆さんの姿に会えるものと期待しています。

（数学教授）

旭川医大看護学科は宝の山

看護学科第１学年担当　北　村　久美子

初心忘れるべからず

看護学科第３期の皆さん、難関を突破し晴れてご入学、心からお祝い申し上げます。

若さと希望に満ちあふれた皆さんをお迎えでき、心からうれしく思っています。ところで、皆さんは看護学科に何を求めて入学されたのでしょうか。

現在の若者を象徴して、「点数と順番を追いかけて、最終的にはある特定のポジションを獲得するまで、決まり切ったチャンネルを通って単位を稼ぎながら、型どおりに生きることを強いられている」と言っている人がいました。つまり、自分の個性を見極め、将来を見通して大学を選ぶという余裕のないままに、大学に入るという風潮を厳しく批判しているのです。すなわち、自分はどう生きるかを問うことの不完全燃焼のままに大学に来ているということであると思います。しかし、皆さんには、人間存在の基本にあるしっかりとした目的意識があって、本学の門をくぐったに違いありません。

学生生活に何を求めてよいかわからない、という欲求不満に陥る場合の多くは、人間の目的意識が混濁しているということであります。

どうか、自ら定めた針路を見失うことなく自己の信念を貫かれますよう期待しています。

人間性の陶冶

このキャンパスは、神々しい大雪山を仰ぎ、四季折々の美しさを堪能できる自然環境に恵まれたところです。４年間の在学中、学業はもとより心のかよう友人をつくり、読書、旅行、クラブ活動などをとおして視野を広げ、自己啓発に努めることも大変重要なことと考えます。それは、皆さんのように人生の中で最も多感な時期に遭遇するすべての事柄は、人生について考えさせ、人間として生きる力をどう鍛えるかというようなエネルギーの蓄積になると思えるからです。

明治の文豪森鴎外は、「青年」という小説の中で、「日本人は学校にはいると、そこをダアーと駆け抜けていくことを考える。そしてその駆け抜けたあとに生活がある、と思っているらしい。ところが駆け抜けたって生活はないのだ。」と指摘しています。これは、学校を通過する中で若者たちは生きていない、すなわち充実した生をふくらませなかった、ということを言っているものと思われます。

４年間の在学中、この大学の中に埋もれている沢山の宝物を、自分の力で掘り当ててみようではありませんか。

おごりを持たず

当学科は、超高齢化社会に対応すべく、看護職指導者の養成を目的に新設され３年目を迎えます。

現在、北海道には約６万人の看護職員がそれぞれの場で活躍しています。看護職を目指すにはいろいろなコースがありますが、大学で学ぶ皆さんたちは、たとえば大雪山の黒岳の何合目かに位置づけられるかもしれません。しかし、その下には広々とした裾野がおし広がり、そこで学ぶ学生、麓から一歩一歩登ってくる学生も大勢います。

将来の社会的部署では、いろいろなコースで学んだ方々と同じ土俵で働くことになるものと思われます。また、皆さんがお世話をさせていただく人々の多くは、高齢者をはじめ人生の大先輩です。

人間の優しさと生命のいとしさをはぐくむ重い使命を持つ仕事が看護職であります。謙虚な心を持ち他人への思いやりを忘れず、円満な人格を備えた専門職業人として立派に成長されるよう切に希望いたします。

（地域保健看護学講座助教授）

平成10年度 旭川医科大学入学式
医学科

平成10年度 旭川医科大学入学式
看護学科

新入生を迎えて

医学科第６学年 相　沢　　圭

新入生の皆様、御入学おめでとうございます。新学期が始まり数週間が経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。新しい生活のスタートは順調にきれましたか。これから始まる４年間・６年間は長いようでいてあっという間に過ぎてしまいます。二度と戻ってこない花の学生時代、多くのことを吸収し、実りある充実したものにしてください。なんてことは、誰もがそう願っているし多くの方が言われたことと思います。ではどうしたら悔いのない学生生活を送ることができるのでしょう。

私なりのアドバイスをひとつ。充実することとは、内容が満ちた豊かな時間を過ごすということです。まずは心から打ち込めるものを探しましょう。部活でも趣味でも何でもＯＫです。今までやってきたことを発展させるもよし、新たなものにチャレンジするもよし、大好きなものを見つけられたら、実りある大学生活は半分約束されたと言えるでしょう。そういうものがなかなか見つけられない場合には、毎日、小さな目標をたくさんもつことをお薦めします。これから始まる講義一コマ中の目標、部活中の目標、もちろん一日全体でも、内容・規模共に自由に設定し達成してみること。夜寝る前に、今日はこれだけのことを覚えた、これだけ成長したと思えたらその一日は成功です。ポイントは、何もしなかった日をつくらないことと言えます。

人と深く接する職業に就く方がほとんどだと思いますが、そのような人たちにとって無駄な知識・無駄な経験はありません。何にでも興味をもって、雑学から専門知識まで幅広い視野を持った人間になってください。皆さんの人生の中で、大学で過ごした数年間がよいステップになったと思えるようなものになることを、心からお祈り申し上げます。

新入生を迎えて

看護学科第３学年 留　畑　寿美江

私がこの学校に入ってから早くも３年がたとうとしています。振り返ってみるとあっという間のような感じでした。しかし、入った当時は第１期生という事もあって不安の毎日でした。しかし、実際に入って日々この大学で生活するに従って、不安という２文字がなくなり、本当に楽しい毎日を過ごすようになりました。というのも、看護学科に入ったのですから、本当に看護の勉強をしたかったことは当たり前ですが、勉強意外にも、自分たちが第１期生という事もあり、これからの学校生活を創っていくことができるという別の楽しさがあったからです。実際に２年間を過ごしてみて、自分たちが創っているという実感とその楽しさを感じている毎日です。

みなさんの大学生活が始まって毎日が発見と不安の毎日の連続でしょうが、今までの高校生活などとは違った生活にきっと楽しかったなぁと思えるようになるでしょう。しかし、ただぼうっと過ごすのではなく、勉強はもちろんのこと、遊びにその他に積極的に参加することも必要なのではないでしょうか。

ほかにこの旭川医大でしか感じられない物として、なんと言ってもこの自然の多さでしょう。ちょっと足を延ばせば、夏は富良野のラベンダーをはじめ、美瑛町の北海道の広々とした風景やその他の北海道でしかみることのできない自然を満喫でき、また冬には手軽にスキーができると言った北海道ならではの楽しさがあります。その寒さにびっくりし、本当に此処は日本なんだろうかと思ったこともありました。しかし、しばらくすればその寒さにも慣れてしまうのでご心配なく。これからみなさんは何年かこの旭川で過ごすわけですが、勉強をしっかりすることは当たり前ですが、たまには授業をさぼってその季節でしか味わえない旭川や北海道を感じてみるのもおもしろいのではないでしょうか。

平成９年度　学位記受領者名簿

氏　　名	課程・論文の別	学位記授与年月日
吉江真澄	課程博士	平成９年６月30日
河井紀一郎	課程博士	平成９年６月30日
松本昭範	論文博士	平成９年６月30日
川岸尚子	論文博士	平成９年６月30日
西垣豊	論文博士	平成９年６月30日
小路悦郎	論文博士	平成９年６月30日
竹内克呂	論文博士	平成９年６月30日
小笠壽之	論文博士	平成９年６月30日
平義樹	論文博士	平成９年６月30日
浅野目充	課程博士	平成９年９月30日
菅原修	論文博士	平成９年９月30日
角谷不二雄	論文博士	平成９年９月30日
山口聡	論文博士	平成９年９月30日
唐崎秀則	課程博士	平成９年12月25日
林達哉	論文博士	平成９年12月25日
高橋正午	論文博士	平成９年12月25日
勝木雅俊	論文博士	平成９年12月25日
高橋文彦	論文博士	平成９年12月25日
大井伸治	論文博士	平成９年12月25日
齋野朝幸	課程博士	平成10年３月25日
小幡雅彦	課程博士	平成10年３月25日
小久保拓	課程博士	平成10年３月25日
大浅貴朗	課程博士	平成10年３月25日
田邊裕貴	課程博士	平成10年３月25日
吉原秀樹	課程博士	平成10年３月25日
安孫子徹	課程博士	平成10年３月25日
北谷智彦	課程博士	平成10年３月25日

氏　　名	課程・論文の別	学位記授与年月日
森文彦	課程博士	平成10年３月25日
豊嶋恵理	課程博士	平成10年３月25日
岡本健作	課程博士	平成10年３月25日
松本啓	課程博士	平成10年３月25日
横浜吏郎	課程博士	平成10年３月25日
青木直子	課程博士	平成10年３月25日
松本英樹	課程博士	平成10年３月25日
Duenas Julio Cesar	課程博士	平成10年３月25日
Santos Severino Barbosa Dos	課程博士	平成10年３月25日
Saha Shyamal Kumar	課程博士	平成10年３月25日
堀田秀一郎	論文博士	平成10年３月25日
大竹孝明	論文博士	平成10年３月25日
川上隆子	論文博士	平成10年３月25日
東百絵	論文博士	平成10年３月25日
山口修二	論文博士	平成10年３月25日
秋田信之	論文博士	平成10年３月25日
建田早百合	論文博士	平成10年３月25日
森田ゆかり	論文博士	平成10年３月25日
榎本啓一	論文博士	平成10年３月25日
今田正信	論文博士	平成10年３月25日
半谷公彦	論文博士	平成10年３月25日
谷口雅人	論文博士	平成10年３月25日

平成10年度　大学院入学者名簿

氏　　名	専　　攻	指導教官
滝沢修一	生体情報調節系	千葉茂
井内康之	細胞・器官系	高後裕
柴田直美	細胞・器官系	高後裕
横濱洋也	生体情報調節系	久保田宗宏
水上創	細胞・器官系	塩野寛
丹聡子	生体情報調節系	牧野勲
鈴木晶子	生体情報調節系	高後裕
今村恵美	細胞・器官系	葛西眞一

氏　　名	専　　攻	指導教官
春山恭子	生体防御機構系	高後裕
佐藤栄一	生体情報調節系	吉田晃敏
平山光久	生体防御機構系	松野丈夫
高橋一朗	細胞・器官系	飯塚一
岩田達也	生体情報調節系	八竹直
竹内茂	生体情報調節系	高後裕
津田宏重	生体情報調節系	田中達也

外国人留学生一覧

平成10年４月１日現在の本学在籍の外国人留学生は、大学院学生９名、研究生２名、特別研究生２名、学部学生４名の合計17名です。
17名の方々は一覧のとおりですが、挨拶を交わすなど簡単なことから交流を深めてゆきたいものです。

（学生課）

氏名	通称	性別	国籍	種別	期間	所属
Ainory Peter Gesase アイノリー ピーター ゲセサ	ゲサセ	男	タンザニア	大学院 第４学年	1995.4.1～ 1999.3.31	解剖学第一講座
陳 敏 チェン ミン	チェン	女	中国	大学院 第４学年	1995.4.1～ 1999.3.31	薬理学講座
于 立志 ウー リッシ	ウー	男	中国	大学院 第４学年	1995.4.1～ 1999.3.31	産婦人科学講座
白 躍宏 パイ ユェホン	パイ	男	中国	大学院 第４学年	1995.4.1～ 1999.3.31	整形外科学講座
金 殷鉄 ヂン インティェ	キン	男	中国	大学院 第３学年	1996.4.1～ 2000.3.31	内科学第一講座
郝 双林 ハオ シャンリン	ハオ	男	中国	大学院 第３学年	1996.4.1～ 2000.3.31	麻酔・蘇生学講座
Sharifa, Dinara シャリファ ディナラ	ディナラ	女	バングラデシュ	大学院 第２学年	1997.4.1～ 2001.3.31	産婦人科学講座
馬 紅 マー ホン	マー	女	中国	大学院 第２学年	1997.4.1～ 2001.3.31	薬理学講座
肖 春陽 シャオ チュンヤン	ショウ	男	中国	大学院 第２学年	1997.4.1～ 2001.3.31	薬理学講座
藩 伯臣 パン ボーチェン	パン	男	中国	研究生	1997.10.1～ 1999.3.31	産婦人科学講座
高 弼虎 ガオ ビフー	ガオ	男	中国	研究生	1997.10.1～ 1999.3.31	生理学第一講座
蘇 慶寧 スー シンニン	スー	男	中国	特別研究学生	1997.3.1～ 1999.3.31	解剖学第一講座
Mansur Khalil マンスール キャリル	マンスール	男	バングラデシュ	特別研究学生	1997.3.1～ 1999.3.31	解剖学第一講座
Azuramati Md. Alwi アズラワティ モハマッド アルワィ	アズラワティ	女	マレーシア	医学科 第４学年	1994.4.1～ 2001.3.31	
Syamsul Bin Muhammed シャムスル ムハマット	シャムスル	男	マレーシア	医学科 第４学年	1994.4.1～ 2001.3.31	
Azaharuldin Abdullah アザハルルディン アブドゥーラ	アザハル	男	マレーシア	医学科 第２学年	1997.4.1～ 2003.3.31	
Hairul Anuar Bin Amir ハイルル アヌアル アミル	ハイルル	男	マレーシア	医学科 第１学年	1998.4.1～ 2004.3.31	

研究室紹介

解剖学第二講座講師　平　義樹

本講座は昭和49年４月に松嶋少二教授によって開設された。当時の陣容は教授以下、加地　隆講師、阪井裕子（旧姓森沢）助手、向井節子助手そして東崎真澄（旧姓菅沢）事務官であった。講座の過半数を若い女性が占めていたため、周りの講座から羨ましがられたと当時を知る方々から聞いている。加地講師は本講座の助教授に昇任後、平成３年４月弘前大学医学部解剖第二講座教授に転出、向井助手は結婚のため昭和55年４月辞職し、ともに本講座から離れていった。その後、数名の入れ代わりがあり、現在は、松嶋少二教授、平義樹講師、阪井裕子助手、春見達朗助手そして東崎真澄事務官という陣容である。また、門　正則眼科講師が研究生として参加している。

教育としては骨学、組織学と神経解剖学を担当し、講議・実習は年間200 時間にも及び、学生と最も付き合いの多い（学生にとっては試験で最も苦しめられる？）講座の一つである。

研究の中心は講座開設以来一貫して松果体である。種々の哺乳類（主としてげっ歯類）の松果体の微細構造の研究、計量形態学的手法を用いての松果体の交感神経の小胞あるいは松果体細胞の形態・構造の日内変動の研究等が開設以来行われ、数多くの知見が得られた。近年では従来の手法に加えて免疫組織化学的方法や分子生物学的手法を用いて松果体内に存在する神経細胞・神経線維の研究や松果体及び下垂体に対する明暗環境の影響等の研究が精力的に行われている。さらに、げっ歯類のみならず下等霊長類のツパイの松果体の研究も行われ、新たな知見が得られつつある。

かつてデカルトによって「精神の座」と呼ばれた松果体は、今なおその機能が明らかではなく私たちを魅了して止まない。この分野に参加する研究者や興味を持つ学生諸君の多からん事を切に願う。

新歓合宿を終えて

新入生歓迎実行委員会
第２学年　南　　尚　賢

先日、毎年恒例の新歓合宿も無事に終えることができました。学内を小グループに分かれて見学する学校案内にはじまり、各クラブが個性を発揮してアピールをしたクラブ紹介、クラブ出店を行いました。その後、神居観光ホテルへ移動し、先輩との談話やゲーム交流会、そして新歓委員の体をはった芸もありました。また、クラブ乱入では、各クラブが新入生の勧誘と入部の説得に必死でした。今年の新入生は大変ノリが良く、予想以上に盛り上がり、新入生の方々にとっては良い思い出となったのではないでしょうか。

さて、新歓委員は昨年の10月に結成されてから、総勢４９名で活動を続けてきました。合格者に郵送する大学案内の冊子「旭医白書」や、下宿・アパート案内の「ゲッパマン」の印刷や製本、ホテルでの受験案内、運営資金となる広告集め等、派手な合宿とは対照的な地道な作業が続きました。また例年行っている病院実習に加え、今年は眼科学講座の吉田教授の講演、旭川画像リサーチセンターの見学も行いました。これらの企画は、新歓委員がいくつかの係に分かれ、係長を中心に分担して仕事を進めていきました。

ここまでの新歓行事を振り返ると、とても沢山の人々の協力に助けられたことを感じます。時には迷惑をかけてしまったり、心配してもらったりもしました。しかし、新歓の仕事を通じてより多くの人々とつながりを持てたことは、この上なく幸せなことだと思います。至らない所の多い自分に最後までついてきてくれた新歓委員のみんなには本当に感謝の念でいっぱいです。そして、新歓の活動を通じて感じた、沢山の方々の温かい心遣いに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。どうも有難うございました。

大学祭実行委員会から

大学祭実行委員会委員長
第４学年　仁　木　　淳

今年の医大祭は、学年担当制となって初の学祭となります。ここ数年、実行委員の少なさから医大祭中止が囁かれていました。その為に今年からは、４年生が中心となることになったわけですが、もともとハロウィンパーティーや縦コンの主催をするなど、イベント好きな学年だったので、一緒に医大祭を作ろうという仲間はすぐに集まってくれました。

さて、今年の医大祭をどの様なものにしていこうか？これまでの医大祭では、模擬店・部活が主体でした。本来の学祭のあるべき姿を実行委員で話し合った結果、地域との交流を図ることが一番ではないかという結論に達しました。そこで今年は、ノースウエーブによるラジオの公開生放送、アーティストによるライブ、講演会、フリーマーケットなど、皆様に楽しんでもらえる様な大イベントを企画し、それと共に医学展の充実を図るように考えました。勿論、派手なイベントを行うことだけが全てではありません。しかし、一般の人々の医大祭への評価が厳しいものである以上、その悪いイメージを一掃し、医大生と地域の方々との交流を図って、医大に親しみを持って頂ける為にも、今年は大きなイベントで、より多くの人に参加してもらうことを目標としました。今年の医大祭を通じて、少しでも多くの人に医大祭の存在を知ってもらい、来年以降の医大祭へつなげていくことで、将来的には、派手なイベントがなくとも、学生と地域との交流を図っていけるような場になっていってくれれば幸いと思っています。

最後に、私達をご支援して下さる諸先生方、並びに学生課を初めとする事務の皆様方、快く協力して下さる地域の皆様方に深く感謝の意を表し、実行委員長の挨拶にかえさせて頂きます。

学内ニュース

平成９年度学士学位記授与式

平成９年度学士学士記授与式が、３月25日(水)10時30分から本学体育館において挙行されました。

式では、本学室内合奏団が奏でる調べのなか、学長から卒業生100 名一人ひとりに学士学位記が手渡されました。

ついで学長から卒業にあたり式辞が述べられました。

(学生課)

平成10年度入学式

医学科・看護学科の入学式が、４月10日(金)10時から本学体育館において挙行されました。

式では、新入生161名・看護学科第３年次編入生４名を代表して看護学科　青砥芽衣さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに大学生活の第一歩を踏み出しました。

(学生課)

平成10年度運営組織

本学には、医学教育についての調査研究、教育課程の編成、修学指導、授業及び試験の実施、単位の修得及び履修、学籍関係等について審議する機関としての教務委員会と学生の厚生補導に関する調査研究、学生の課外活動、福利厚生等について審議する機関として厚生補導委員会があります。

両委員会の平成10年度の委員は次のとおりです。

〈教務委員会〉

委員長　片桐一（副学長）
副委員長　岩渕次郎（図書館長）
委　員　山内一也（医学科第１学年学年担当）
中村正雄（医学科第２学年学年担当）
東匡伸（医学科第３学年学年担当）
松嶋少二（医学科第４学年学年担当）
石川睦男（医学科第５学年学年担当）
油野民雄（医学科第６学年学年担当）
北村久美子（看護学科第１学年学年担当）
阿部典子（看護学科第２学年学年担当）
野村紀子（看護学科第３学年学年担当）
上口勇次郎　坂本尚志
池田久實　岡田洋子

〈厚生補導委員会〉

委員長　片桐一（副学長）
副委員長　金沢徹
委　員　谷本光穂　松岡悦子
三田村保　吉田逸朗
小川勝洋　千葉茂
葛西眞一　田中達也
望月吉勝　松谷洋子
松浦和代　武井明

(学生課)

新入生研修実施される

平成10年度新入生研修が、医学科は４月20日(月)・21日(火)の両日、看護学科は４月23日(木)～24日(金)の１泊２日で実施されました。

医学科は、新入生を12～13名のグループに分け、１グループに先輩を含む３名の教官が指導にあたり、自己紹介についで学生生活全般にわたり助言並びに懇談が行われました。

また、看護学科は、２日間にわたり合宿研修が美瑛町大雪山白金観光ホテルにおいて実施され、今後の学習への取り組み方、人との関わりについて指導・助言などがあり、また、交流会では、新入生間・新入生と教官間の親睦を深めました。

(学生課)

医学科

看護学科交流会

ワークショップ

平成10年度の主な行事

4月10日	入学式	
4月20日・21日	医学科新入生研修	
4月23日～24日	看護学科新入生研修	
6月5日～7日	医大祭	
9月9日	体育大会	
9月16日	解剖体慰霊式	
11月5日	本学記念日	
3月25日	学士学位記授与式	（学生課）

教官の異動

定年退職	10.3.31	薬理学	教授	安孫子　保
〃	〃	公衆衛生学	〃	福山　裕三
〃	〃	耳鼻咽喉科学	〃	海野　徳二
〃	〃	麻酔・蘇生学	〃	小川　秀道
辞職	〃	保健管理センター	講師	酒木　保
〃	〃	英語	助教授	山崎　雅人
〃	〃	第三内科	講師	小野　稔
〃	〃	放射線科	〃	斉藤　泰博
辞職	10.3.31	脳神経外科	講師	佐古　和廣
昇任	10.4.1	基礎看護学	教授	岩本　純
〃	〃	〃	〃	木村　昭治
〃	〃	解剖学第一	助教授	大森　行雄
〃	〃	生理学第一	〃	橋本　眞明
〃	〃	基礎看護学	〃	石川　一志
〃	〃	解剖学第二	講師	平　義樹
〃	〃	病理学第二	〃	佐藤　啓介
〃	〃	整形外科学	〃	武田　直樹
〃	〃	第三内科	〃	大平　基之
〃	〃	脳神経外科	〃	程塚　明
採用	10.4.1	歴史	教授	近藤　均
〃	〃	臨床看護学	助教授	松浦　和代
〃	〃	地域保健看護学	〃	佐藤　雅子
〃	〃	放射線部	〃	高橋　康二
〃	〃	保健管理センター	講師	武井　明
〃	〃	脳神経外科学	〃	中井　啓文
〃	〃	眼科	〃	秋葉　純
配置換	〃	臨床看護学	〃	加藤千津子

怒　外

沖　潤一

「かぐらおか」の執筆依頼を頂いた時、原稿用紙が5枚入っており、医者になりたての頃を思い出しました。当時の論文を書くという作業は、万年筆で原稿用紙に字を書くことであり、最初に自分の自由になる給料を貰った時は、まず万年筆を買いました。「手書」という単語がありましたが、「てかき」と読ませ「文字を上手に書く人（昭和40年発行、新潮国語辞典）」という意味でした。「てがき」と発音し、「ワープロなどの機器を用いず、（その人が）自分で書くこと」という使い方が主となったのは、さほど昔のことではありません。

私が、小児科に入局したときに、当時の吉岡教授にまず教えていただいたのは、「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」の書き方です。論文も原稿用紙に1行ずつ空けて書き、その空間に教授がびっしりと朱を入れて下さいました。何度も書き直しが必要だったため、論文が完成した時は本当に嬉しかったものです。また、科学研究費の申請などの公式文書を書くときは、事務の女性がグーテンブルグの印刷機のような「和文タイプライター」を用い、漢字を一つ一つ選んで紙に打ちつけていました。スライドも、もちろん手作りのジアゾスライド。後輩に「現像液に3分、よく水洗いしてから定着液に5分」と暗室で指導したものでした。

ワープロやパソコンが普及した今、原稿やスライド作成が非常に楽になりました。美しい印刷物が氾濫し、カラフルなスライドが講義室、学会場を賑わせています。ただ、書き手やスライド作成者の意思が以前より伝わるようになったのでしょうか？授業や学会が分かりやすくなったでしょうか？医局の机の上には毎日美しい印刷物が山のように積まれていますが、連絡漏れが“山”の高さに比例して増えています。また、我ながら美しいと思うスライドを駆使した授業でも、眠っている学生がかえって増えているような気がします。このことに気付いた後は、大切な連絡事項があれば、赤いマジックインクで手書きにするように心がけ、授業でも導入の部分や重要な点は黒板に書くという古典的な手段に戻りました。ワープロやパソコンは、あくまでも道具の一つであり、「誰に何を伝えたいのか」ということを常に忘れないよう心がけていきたいものです。

同じ様なことが、E-mailやインターネットについてもいえるでしょう。諸外国の研究者と瞬時のうちに連絡を取ることができ、最新の情報も容易に入手できるようになりました。Air mailでやりとりし往復に早くとも2週間かかっていた頃に比べると、夢のような時代です。ただ、身近にいる人同士のやり取りが減ってはいないでしょうか？世界的な視野と同時に身近な視野を大切にしたいものです。

（小児科学講座助教授）